

令和 3 年 6 月 28 日現在

機関番号：32639

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H01023

研究課題名(和文) 子どもの貧困と学習の社会的成果に関する理論的実証的研究

研究課題名(英文) Theoretical and Experimental Study of the Association between Children's Poverty and Learning Outcome

研究代表者

笹井 宏益 (SASAI, Hiromi)

玉川大学・学術研究所・教授

研究者番号：10271701

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 22,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、社会的養護を受けている子どもたち(スクールソーシャルワークに関わる子どもたち、児童養護施設の子どものたちなど)、学校に通う児童生徒たち、そして学校外の施設で生活する貧困層の子どもたちに焦点を当てている。それぞれの「場」における支援者(教員、施設職員、ソーシャルワーカーなど)に着目することで、貧困層の子どもたちの成長・発達の現状と、非認知的スキルを中心とした汎用的なスキルの習得との関係について分析している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

子どもの貧困問題を解決しその将来にわたって豊かな成長発達を促すためには、「未来の大人」の育成を見据えた生涯学習論的な視座、すなわち、生涯にわたる成長発達を踏まえた視座に基づき、「社会的養護」「学校教育」「教育評価」といった3つの観点から教育的支援策の在りようを研究することが重要であり、本研究においては、養護施設や学校、さらには学校外の教育施設といった「子ども成長発達の現場」における子どもの貧困の現状を把握することができた。併せて、子どもの貧困がスキル形成に影響を及ぼす際の基本的論点や分析・考察の枠組みを明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：This study focuses on children in social care (children involved in school social work, children in orphanages, etc.), students in schools, and children in poverty who live in institutions outside schools. By focusing on the supporters (teachers, facility staff, social workers, etc.) in each of these "places," we have clarified the current status of growth and development of children in poverty and the relationship between this status and the acquisition of general-purpose skills, mainly non-cognitive skills.

研究分野：教育社会学、社会教育学

キーワード：児童養護施設 非認知スキル PIAAC 子どもの貧困 ソーシャルワーカー 機会の平等化 教員の働き方 コミュニティ・スクール

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

「子どもの貧困」が大きな社会的問題となり、国、地方公共団体などの公的セクターあるいはNPOなどの民間セクターを問わず、それらへの取り組みが大きな関心事となっていた。貧困は、経済的領域のみならず様々な領域に大きな影響を与える。子どもの貧困が、学力の低下など認知スキル（認知能力）にしばしば悪影響を与えることは、広く知られるようになってきているが、人間性など非認知スキル（非認知能力）に与える影響については、必ずしも明らかになっておらず、今回、（心理学的なアプローチではなく）社会学や教育学のアプローチにより、その点に迫ろうと考え、本研究を着想した。

2. 研究の目的

本研究は、学習の社会的成果を明らかにしたOECDの国際成人力調査（PIAAC調査）で明らかになった、成人が社会的活動を進めていく上で必要不可欠な「汎用的スキル」の有りように着目して、子どもの「社会的養護」「学校教育」「教育評価（生涯学習的観点からの評価）」の3つの視点を統合させる形で、領域横断的に子どもの貧困問題の解決に貢献しうる支援策を検討するための知見の生成を目指している。汎用的スキルとは、学校教育よりも家庭で育成されやすいことが分かっていることから、貧困家庭では育成されにくく、その結果、貧困問題が世代間の連鎖を引き起こす原因になる可能性が高い。

そこで、家庭外でも活用できる汎用的スキルを育成するための支援方策を検討することで、子どもの貧困問題の解決に貢献しうる政策や取り組みを検討するための知見を明らかにしようとした。子どもの貧困問題は、対症療法的な経済的支援のみでは解決し得ない、親の貧困が子どもに影響を及ぼす「世帯の貧困問題」という性格を有している。この世帯の貧困問題に対して、例えば、国は、憲法第25条に基づく「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利（生存権）」の保障の具体化として、生活保護制度に基づく扶助を行ってきた。この扶助は、あくまでも、現時点で必要な費用等を扶助するという、いわば対症療法的なものといえるが、これのみによって、子どもの貧困問題を根本から解決することは難しい。なぜならば、子どもの貧困問題は、親から続く貧困問題であり、子どもが親になっても続く問題になり得る、という「世代間の連鎖」を引き起こす可能性が高いからである。

したがって、子どもの貧困問題を解決し、その将来にわたって豊かな成長発達を促すためには、「目の前の子ども」に対する対症療法的な支援策の実施と同時に、「未来の大人」の育成を見据えた、生涯学習論的な視座、すなわち、生涯にわたる成長発達という視座に基づく支援策の検討を行うことは不可欠であると考えられる。

しかしながら、そのような観点に基づく支援策の検討は行われておらず、また研究上の知見も蓄積されていない。こうしたことから、子どもの貧困問題の解決に貢献しうる支援策の検討のために、「未来の大人」の育成を見据えた子どもへの教育的支援策の在り方を、「社会的養護」「学校教育」「教育評価（生涯学習的観点からの評価）」の3つの観点に基づいて行った。

3. 研究の方法

「貧困の世代間連鎖」を止める支援策の重要性を踏まえ、本研究では、生涯学習論の視点に基づいて、教育的な営みの中で育成されるスキルと雇用や報酬などとの関連を分析した「PIAAC調査」にかかる研究成果を、先行研究及びエビデンスとして用いている。エビデンスに基づく研究や支援策の重要性については、アカウントビリティ確保の観点からも国際的に共有されており、妥当性があるものと考えられる。

PIAAC調査は、多くの社会的場面や労働環境にある成人に必要な不可欠なスキルとして、3つのキー・スキル（読解力・数的思考力・ITを活用した問題解決能力）にかかる直接調査を34のOECD加盟国/地域で行っている。また、成人の幸福や社会参加（労働市場への参加・雇用・所得・健康・団体活動やボランティア活動への参加・自分が政治プロセスに影響を与えているという意識）などについての自己申告を行う「属性調査」の2つから成り立っている。「3つのキー・スキル」と「成人の幸福や社会参加の状況」との間には、統計的に有意な関連があることが明らかになっている。したがって、貧困の世代間連鎖を止めうる「未来の大人」になるためには、3つのキー・スキルの育成は極めて重要であると考えられる。

さて、PIAAC調査によれば、3つのキー・スキルのうち、日本の成人については、学校教育で育成可能な「読解力」と「数的思考力」の成績は、国際的にもトップクラスに位置している。しかしながら、同時に、日本の成人は、高いスキルの保持者が必ずしも相応の労働市場に参加できているとは限らない状況にあることから、労働市場に参加するためには、3つのキー・スキル以外の「汎用的スキル」が必要であることが示唆されている。

この「汎用的スキル」には、教科教育による知識構築が中心の学校教育では必ずしも十分に育成し得ない、「社会情動的スキル」と呼ばれる「非認知スキル」が多く含まれている。その「非認知スキル」は、とりわけ家庭などで育成されている場合が多いものと考えられる。その点を踏まえて、子どもの貧困問題を、世代間の連鎖の観点から検討した場合、貧困家庭で連鎖しているのは経済的貧困だけではなく、「非認知スキルを育成する機会の喪失」という教育/学習的な貧困も連鎖している可能性が高いと言える。

すなわち、貧困状態にある子どもは、対症療法的な支援策によって、学校教育というシステム化された教育の場において非認知スキルを育成することができたとしても、学校教育以外の場、例えば、家庭などでは非認知スキルは育成されにくいといわざるを得ないのである。言いかえると、貧困状態にある子どもは、PIAAC調査が取り上げている「成人の幸福や社会参加」に必要な非認知スキルを育成し得ないまま成人してしまうのであり、貧困の世代間連鎖を引き起こしているのではないかと、という仮説が生じることになる。

上記の仮説に基づき、汎用的スキルの獲得機会が喪失し、貧困の状態に置かれている子どもに対して、汎用的なスキル獲得のための支援策を検討した。具体的には、「社会的養護の対象となっている子どもたち」(スクールソーシャルワークが関わっている子どもたち・児童養護施設などの子どもたち)及び「学校の児童生徒」、さらには、「学校外の施設に身を寄せている貧困状態にある子どもたち」に焦点を当て、それぞれそれらの場の支援者(教師・施設職員・ソーシャルワーカーなど)に着目して、貧困状態に置かれた子どもの成長発達とスキル獲得の状況等を明らかにした。

なお、本研究は、上記3つの研究アプローチを踏まえて、「社会的養護ユニット」「学校

教育ユニット「教育評価ユニット」の3つの研究グループに分かれて研究活動を実施した。

4. 研究成果

本研究では、社会的養護の対象となっている子どもたち（スクールソーシャルワークが関わっている子どもたち・児童養護施設などの子どもたち、及び学校の児童生徒、さらには学校外の施設に身を寄せている貧困状態にある子どもたちに焦点を当て、それぞれそれらの場の支援者（教師・施設職員・ソーシャルワーカーなど）に着目して、貧困状態に置かれた子どもたちの成長発達と非認知スキルを中心とする汎用的スキルの獲得状況、また両者の関係等を明らかにした。

具体的には、これらの3つの対象者（対象施設）ごとに、「社会的養護ユニット」「学校教育ユニット」「教育評価ユニット」の研究グループに分かれて研究活動を行い、次のような成果を得た。

- (1) 社会的養護ユニットにおいては、養育施設の関係者等に対して質問紙調査や訪問面接調査を実施し、それらの結果をもとに「社会的養護の対象となっている子どもたち」とスキル獲得の状況との関係について分析・考察した。
- (2) 学校教育ユニットにおいては、山梨県の学校を対象に、教師の勤務状況と児童生徒の貧困との関係について質問紙調査等を実施し、その結果を分析・考察した。
- (3) 教育評価ユニットにおいては、PIAAC調査をベースにしたスキル獲得の状況等にかかる国際比較分析の結果を整理・再分析するとともに、「学校外の施設に身を寄せている貧困状態にある子どもたち」とスキル獲得の状況との関係について、関係する施設等に対して訪問面接調査を行い、その結果を分析・考察した。

上記の研究活動の成果については、「子どもの貧困と学習の社会的成果に関する理論的実証的研究」報告書（2021年3月）にまとめている。同報告書の論稿は、次のとおりである（タイトルのみ）。

第1章 非認知スキルをめぐる社会的動向とその評価（教育評価ユニット関連）

- ・PIAAC調査レポート OECD/Adult Skills in Focus について
- ・機会の平等化における教育の役割の再検討：経済的地位の世代間連鎖に関する分析を手がかりに
- ・非認知スキル、コミュニティ・スクールと教育政策
- ・協働スキルの育成と関係性の構築

第2章 貧困と非認知スキル-養育施設を中心に-（社会的養護ユニット関連）

- ・貧困状態にある子どもに不足している非認知的スキルと支援
スクールソーシャルワーカーへの調査から
- ・貧困状態にある子どもの非認知的スキルと支援 - 児童養護施設長調査から -
- ・貧困を経験した子どもへの支援に関する調査報告 - 児童養護施設全国調査 -
- ・児童養護施設における貧困経験のある子どもの非認知的スキルと支援
- ・児童養護施設職員から見た入所児童の貧困経験と支援-施設における支援と非認知的スキルに関する一考察-
- ・貧困を経験した子どもの非認知的スキルと児童養護施設における支援に関する一考察

第3章 教師の勤務状況と子どもの貧困に関する調査（学校教育ユニット関連）

・教師の勤務状況と子どもの貧困に関する調査報告

このたびの研究活動の期間中にコロナ感染症によるパンデミックが発生し、社会調査を多用する本研究の遂行過程に少なからぬ影響を与えたが、上記に掲げたとおり、学術的・社会的に有意義な研究成果を得ることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 新藤こずえ	4. 巻 44
2. 論文標題 児童養護施設における貧困経験のある子どもの非認知的スキルと支援	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 上智大学社会福祉研究	6. 最初と最後の頁 17-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩田美香	4. 巻 56
2. 論文標題 児童養護施設職員から見た入所児童の貧困経験と支援 施設における支援と非認知的スキルに関する一考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館産業社会論集	6. 最初と最後の頁 33-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福間麻紀	4. 巻 27
2. 論文標題 貧困を経験した子どもの非認知的スキルと児童養護施設における支援に関する一考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北海道医療大学看護福祉学部紀要	6. 最初と最後の頁 27-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	卯月 由佳 (UZUKI Yuka) (00718984)	国立教育政策研究所・国際研究・協力部・総括研究官 (62601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	勝野 正章 (KATSUNO Masaaki) (10285512)	東京大学・大学院教育学研究科(教育学部)・教授 (12601)	
研究分担者	植田 みどり (UEDA Midori) (20380785)	国立教育政策研究所・教育政策・評価研究部・総括研究官 (62601)	
研究分担者	小原 一仁 (OBARA Kazuhito) (20407729)	玉川大学・教育学部・教授 (32639)	
研究分担者	長岡 智寿子 (NAGAOKA Chizuko) (20738273)	田園調布学園大学・人間科学部・准教授 (32720)	
研究分担者	鶴田 清司 (TURUTA Seiji) (30180061)	都留文科大学・教養学部・教授 (23501)	
研究分担者	大竹 智 (OOTAKE Satoru) (30258686)	立正大学・社会福祉学部・教授 (32687)	
研究分担者	岩田 美香 (IWATA Mika) (30305924)	法政大学・現代福祉学部・教授 (32675)	
研究分担者	北村 友人 (KITAMURA Yuto) (30362221)	東京大学・大学院教育学研究科(教育学部)・准教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	志々田 まなみ (SHISHIDA Manami) (30435044)	国立教育政策研究所・生涯学習政策研究部・総括研究官 (62601)	
研究分担者	栗田 克実 (KURITA Katsumi) (30530109)	旭川大学・保健福祉学部・准教授 (30101)	
研究分担者	帆足 哲哉 (HOASHI Tetsuya) (30760152)	玉川大学・学術研究所・助教 (32639)	
研究分担者	川本 哲也 (KAWAMOTO Tetsuya) (40794897)	東京大学・大学院教育学研究科（教育学部）・特任助教 (12601)	
研究分担者	高良 麻子 (KORA Asako) (70376846)	東京学芸大学・教育学部・教授 (12604)	
研究分担者	福間 麻紀 (FUKUMA Maki) (70581867)	北海道医療大学・看護福祉学部・講師 (30110)	
研究分担者	加藤 かおり (KATO Kaori) (80323997)	国立教育政策研究所・生涯学習政策研究部・総括研究官 (62601)	
研究分担者	河野 順子 (KAWANO Junko) (80380989)	白百合女子大学・人間総合学部・教授 (32627)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田島 信元 (TAJIMA Nobumoto) (90002295)	白百合女子大学・人間総合学部・教授 (32627)	
研究分担者	本多 正人 (HONDA Masato) (90282623)	国立教育政策研究所・教育政策・評価研究部・総括研究官 (62601)	
研究分担者	新藤 こずえ (SHINDO Kozue) (90433391)	上智大学・総合人間科学部・准教授 (32621)	
研究分担者	手塚 健郎 (TEZUKA Takerou) (90551739)	国立教育政策研究所・生涯学習政策研究部・総括研究官 (62601)	
研究分担者	高橋 史子 (TAKAHASHI Fumiko) (80751544)	東京大学・大学院教育学研究科（教育学部）・特任研究員 (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関